

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

頭では分かっているけれども、身体が思うように動かない。こんな経験は誰でもしたことがあるだろう。または、頭で思い描いていたことと違う動作をしてしまった、などという経験もしたことがあるに違いない。こうした経験からでも、頭と身体は別物であることがうかがい知れる。

身体はふつう、自分たちにとってひとつの所有物である。身体がかゆくなったら搔くし、痛みを伴えばその箇所を指さして訴えたりする。反対に、(こ)コウチヨウなときは身体が軽く感じたりする。これはとりもなおさず、身体が自分の所有物であるがゆえの感覚である。他の人には感じることの出来ない、唯一本人のみが感じることの出来る感覚を身体は有しているのである。

しかし、①自分の所有物だと思っていた身体が自分を裏切る他者性を有していることは注目に値する。先の話に戻ろう。「頭では分かっているけれども、身体が思うように動かない」、「頭で思い描いていたことと違う動作をしてしまった」という誰にでもある経験は、身体が自分の所有物でなくなる瞬間を捉えたものである。もし身体がずっと自分の所有物であるならば、身体は意のままに操れるはずである。しかし実際そんなことはないのは明白だろう。

むしろ、自分の意のままに操ることの出来ない「他者性」を身体は有しているのである。

②自分であって自分でないという二面性をもった、一種不気味な存在が身体である。こんなにも身近にあるのに、ふいに自分を裏切ることがあるのだ。こう考えると、自分のことは自分が一番よく分かっている、という言葉説は本当かどうか怪しくなってくる。もしかすると、自分のことは自分が一番よく分かっているのかもしれない。

そもそも、私たちはいつから身体を自分の所有物だと思うようになったのだろうか。これについて考えるために、フランスの精神分析学者ジャック・ラカンが提唱した「鏡像段階」を用いよう。生後六ヶ月ほどの赤ん坊が、鏡に映った自分の姿を自身の全体像だと把握する段階が「鏡像段階」である。「把握する」というよりむしろ、正確には「思い込む」と言った方がいだろう。なぜなら、私たちは自分の目で直接、後頭部や背中を見たことがないのに、きつと鏡に映った通りの形をしているだろうと思ひ込んでいくからである。だから、私たちは生後六ヶ月ほどのときの「思い込み」のまま自身の身体を捉えているのである。

こうした「思い込み」は人間の強力な想像力である。しかしこの想像力は強ければ強いほど、自身に都合の良い世界を創り上げ

てしまうのだ。例えば、相手が自分の期待を裏切ったとき、失望し怒りが湧くことがあるだろう。それは、「相手はきつと自分の思うように動いてくれるだろう」という強い思い込み⇨想像が働き、自分に都合の良い世界を創り上げたものの、その世界を破壊されたことによるものである。これと同様に、身体に(イ)対しても都合の良い判断を下しがちである。そもそも身体を自身の所有物だと思っていると、ところからうかがい知れるのである。

しかし、身体は他者である。自分の思い通りにならない側面がたくさんある。こんなにも近しい存在なのに、いや、こんなにも近しい存在だからこそ、③身体の他者性は明瞭に自覚されるのである。近しい存在であれば、その分期待度も増し、きつとこうしてくれるはずだという思い込みが強くなる。しかし、どんなに近しい存在でも他者であることに変わりはない。哲学者レヴィナスは「他者は常に不意打ちである」と述べた。身体も常に不意打ちをしてくる。身体は他者だからである。思いもよらないタイミングで激痛が走ったり、いつの間にかリズムに乗っていたりするものである。自分のコントロール下におけない存在なのである。

(『身体の他者性』より)

問1 傍線部(ア)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、一つ選べ。

- (ア) コウ|チヨウ
- ① 実力がキツ|コウする。
 - ② 薬の|コウカが出る。
 - ③ コウ|カンの持てる人だ。
 - ④ コウ|リヨウとした原野。

問2 傍線部(イ)と同じ意味を持つものを、次の各群の①～④のうちから、一つ選べ。

- (イ) 対し
- ① 対|カ
 - ② 対|ヒ
 - ③ 対|メン
 - ④ 対|セン

問3 傍線部①「自分の所有物だと思っていた身体が自分を裏切る他者性を有している」とあるが、どういふことか。五〇字以内で述べよ。

問4 傍線部②「自分であつて自分でないという二面性をもつた、一種不気味な存在が身体である」とあるが、筆者はなぜこのように述べるのか。正しい選択肢を次の各群の①～④のうちから、一つ選べ。

- ①頭では理解しているが、身体が動かないことがある点で、身体は不気味な存在だと感じるから。
- ②他人が感じることのない、当人のみが感じる感覚を有している点で、身体は不気味な存在だと感じるから。
- ③自分の所有物でありながら、思い通りに操れない側面もある点で、身体は不気味な存在だと感じるから。
- ④思い込みが強く、自身にとって都合の良い世界を創りあげる点で、身体は不気味な存在だと感じるから。

問5 傍線部③「身体の他者性は明瞭に自覚されるのである」とあるが、どういふことか。正しい選択肢を次の各群の①～④のうちから、一つ選べ。

- ①身体は常に不意打ちをしかけてくる他者性を有しており、コントロール出来ないものであるということ。
- ②身体は近い存在であるため身体に対する期待度が増すが、裏切られたときに他者性をはっきりと感じるということ。
- ③どんなに想像力が強くても、身体は生後六ヶ月以来の長年の思い込みをあっけなく破壊する他者性をもつということ。
- ④自身に近い存在である身体は、その他者性を明瞭に感じることで期待度が増していくものであるということ。